

福満遺跡
第 20 次発掘調査報告書

－建売住宅建設工事に伴う発掘調査－

2021

彦根市

目 次

例言

第1章	序 論	1
1	調査に至る経緯と経過	
2	地理的・歴史的環境	
	（1）地理的環境	
	（2）歴史的環境	
第2章	調査成果	2
1	基本層位	
2	遺構と遺物	
	（1）概要	
	（2）堅穴建物	
	（3）小穴群	
第3章	総 括	5

図版

報告書抄録

例 言

1. 本書は、彦根市教育委員会が建売住宅建設工事に伴い、平成28年9月20日から同年11月4日にかけて実施した、福満遺跡における埋蔵文化財発掘調査の報告書である。整理調査については、令和2年7月10日から令和3年3月にかけて行った。
2. 本調査の調査地は、彦根市西今町298番2に位置する。
3. 本調査は、現地調査を彦根市教育委員会文化財部文化財課が実施し、整理調査は組織改編に伴い彦根市歴史まちづくり部文化財課が事業を継承して実施した。調査の体制は下記のとおりである。

平成28年度（現地調査）

教育長：善住喜太郎

文化財部長：馬場孝雄

文化財課長：稲野善行

課長補佐兼管理係長：草川高章

文化財係長：三尾次郎

主査：林 昭男

主査：小林圭一

主任：渡邊 輝

主任：下高大輔

文化財部次長：広瀬清隆

副主幹：井伊岳夫

史跡整備係長：北川恭子

主査：深谷 寛

主査：戸塚洋輔

副主査：田中良輔

主任：斎藤一真

令和2年度（整理調査）

市長：大久保貴

歴史まちづくり部長：広瀬清隆

副参事兼文化財課長：松宮智之

主幹兼史跡整備係長：鈴木康弘

副主幹：小川有紀

文化財係長：三尾次郎

主査：戸塚洋輔

主査：田中良輔

主任：斎藤一真

主事：西坊仁志

技師：舟山友祐

会計年度任用職員：沖田陽一

会計年度任用職員：飯島由紀子

会計年度任用職員：岡田ひとみ

会計年度任用職員：豊村たまき

会計年度任用職員：阿部春香

歴史まちづくり部次長：久保達彦

主幹兼歴史民俗資料室長：井伊岳夫

主幹：辰巳 清

課長補佐兼管理係長：牧田 歩

主査：林 昭男

主査：多賀公一

副主査：門西靖子

主任：鈴木達也

主事：北村双葉

技師：内藤 京

会計年度任用職員：樋口杏奈

会計年度任用職員：山路二路子

会計年度任用職員：久保亮二

会計年度任用職員：小野直子

4. 現地調査と整理調査は田中が担当し、以下の諸氏が参加した。

現地調査：上田定男 久木正弘 外海正司 中村義浩 吉田輝一（作業員）

沖田陽一（臨時職員）

整理調査：豊村たまき（作業員） 樋口杏奈（臨時職員）

5. 本書で使用した遺構実測図は、沖田陽一、田中が作成し、遺物実測図については、樋口杏奈が作成した。遺構と遺物の写真撮影は、田中が行った。
6. 本書の執筆及び編集は、田中が行った。
7. 本書で使用した方位は、平面直角座標第VI系の真北に、高さは東京湾平均海面に基づく。
8. 本調査で出土した遺物や写真・図面等は彦根市文化財課で保管している。

第1章 序論

1 調査に至る経緯と経過

本書は民間開発による建売住宅建設工事に伴って実施した、福満遺跡（彦根市西今町所存）の発掘調査成果をまとめたものである。

建設工事に先立ち提出された文化財保護法第93条の届出及び調査依頼に基づいて、平成28年7月1日に開発面積150.01㎡を対象として試掘調査を行ったところ、小穴等の遺構を確認した。このため、平成28年9月20日～平成28年11月4日の期間において、工事の実施によって保存が不可能となる建物部分、約60㎡を調査対象地として設定し、本発掘調査を実施した。その後、令和2年7月～令和3年3月にかけて整理作業を行い、本報告書の刊行となった。

2 地理的・歴史的環境

(1) 地理的環境

福満遺跡は、彦根市の北部、彦根市西今町一帯に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地である。福満遺跡は犬上川右岸に位置し、犬上川扇状地の扇端部にあたることから、水はけのよい安定した土地と、伏流水が湧出する低湿な土地とが接する変化に富んだ環境となつて

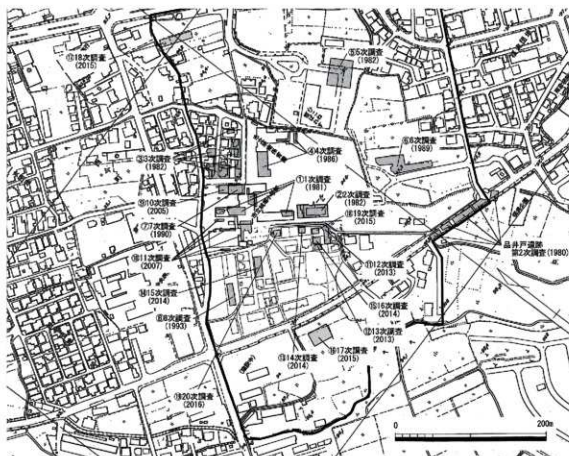


図1 調査地点位置図

いる。その低地部では、犬上川の伏流水を水源とする小河川が複数存在し、この湧水点から以西、琵琶湖岸方面へ向かつては、これらの水源を利用した水田地帯が広がっている。

周辺の地質は、犬上川の土砂運搬作用により堆積した黄褐色土や砂質土、砂礫層などが基盤層を形成しており、一部の地点においては青灰色や暗灰色の粘質土層なども見られる。

(2) 歴史的環境

福満遺跡では、これまでに縄文時代前期を最古として、縄文時代晩期、弥生時代中期、弥生時代終末、古墳時代前期～後期、飛鳥時代、奈良時代、平安時代、鎌倉時代、室町時代と、各時期の遺物や遺構が検出されている。

今回の調査区の西側約30m付近に位置する福満遺跡第15次発掘調査区においては、弥生時代終末期から古代にかけての時期の自然流路や古墳時代後期の古墳の周濠などが検出されており、近接する今回の調査地点についても、同様の時期の遺構群の存在が予想されていた。

第2章 調査成果

1 基本層位

本調査地点においては、表土層である白灰色碎石層（現代造成土）が約50cm、灰色粘質土層（旧耕作土）が約20cm、褐色粘質土層（床土）が約10cmあり、その下部において地山層である明黄褐色砂質土層を確認した。

今回検出した遺構は、いずれもこの明黄褐色砂質土層の上面において検出している。なお遺物については全てSH01内部からの出土であり、この中から図化可能な物2点を掲載した。

2 遺構と遺物

(1) 概要

発掘作業は、重機によって地表面から約80cm余の造成土・旧耕作土を除去したのち、地山層の上面において遺構の検出作業を行った。その結果、竪穴建物1棟と、これに関連すると思われる小穴群などを検出した。以下、詳述する。

(2) 竪穴建物

SH01 SH01は、調査区北西端に位置する竪穴建物である。遺構の大半が調査区外となっていることから、平面形状は不明であるが、概ね隅丸長方形を呈するものと推定される。平面規模は調査区内において長軸約2.9m以上、短軸約2.8mを測り、遺構面からの深さは約16cmが残存し、主軸は正南北軸に対して約30度東へ傾く。

建物内部にはカマド1基、土坑2基（SK01、02）が構築されており、いずれも比較的良好な状態で残存していた。また、建物の外周部には付属すると思われる小穴列が検出されており、具体的な関わりは不明であるものの、建物本体の構造に関わるものであると考えている。

カマド カマドはSH01の北西角近くに構築されており、最大幅約95cm、焚口からの奥

行は残存長で約 60 cm を測る。カマド内部の燃焼面は被熱して赤変し、焚口と思われる付近には少量の炭化物が残存していた。カマドは半円状に建物の外部へと突出するが、その突出部は後世の攪乱を受けているため、全容は不明である。遺物としては、カマド内の埋土から、概ね 8 世紀代と推定される土師器甕の口縁部片 (図 4-1) が出土している。

SK01 SK01 は、SH01 内部に構築された土坑である。平面形態は隅丸長方形ないしは楕円形を呈し、長軸約 70 cm × 短軸約 45 cm、床面からの掘削深度約 30 cm を測る。遺物としては、土坑内の埋土から、概ね 8 世紀代と推定される須恵器坏身 (図 4-2) が出土した。

SK02 SK02 は、SK01 と同じく SH01 内部に構築された土坑である。平面隅丸長方形を呈し、長軸約 80 cm × 短軸約 65 cm、床面からの掘削深度約 10 cm を測る。

(3) 小穴群

小穴群 小穴群については、基本的に堅穴建物に近接した位置でのみ検出されている。先述のとおり、大半は小穴列として堅穴建物の構造に関わるものと考えられ、その他の小穴についても、直接建物の構造に関わるものとは考えにくいものの、いずれにしてもこの建物を構築した人々の活動に関わるものと推定される。

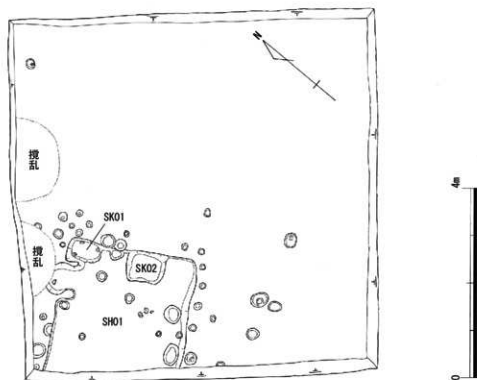


図 2 遺構配置図

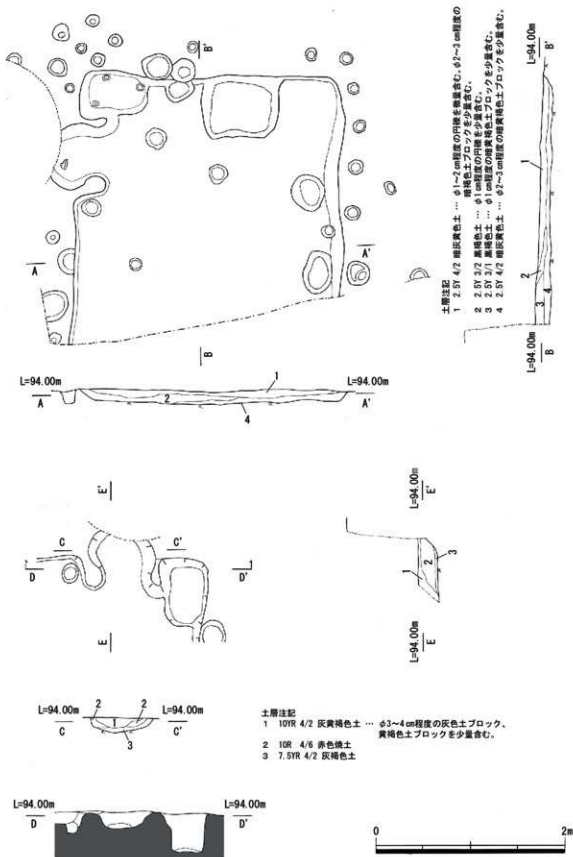


図3 SH01 平面図・土層断面図

第3章 総括

今回の調査では、比較的小規模な調査面積ながら、堅穴建物1棟の過半を調査区内に捉えることができた。以下、この堅穴建物の特徴に若干の考察を加えることで、今回の調査についての総括としたい。

堅穴建物（SH01）は、現況で1辺が概ね3～4m程度と比較的小型の堅穴建物で、出土遺物からは、概ね8世紀代に帰属する遺構であると考えられる。

内部にはカマド1基を有しており、そのカマドの右側には土坑が付属する。また、建物外周部には小穴が取巻くように列状に並ぶが、カマドや土坑などが位置する部分では、外周部の小穴間の間隔が広くなる。このためSH01には、カマド・土坑・小穴群と一体的に構成されるような上部構造があったものと推測される。

SH01の性格については、建物の平面積に対してカマドや土坑および、想定される作業空間などの占める割合が大きいことから、炊事空間としての機能が強いように思われる。このことから、1世帯単位の居住空間としてはSH01の単独ではなく、この他にも別の機能を持つ複数棟の建物が近隣に存在していた可能性がある。

以上、推測を交えつつ、今回の調査成果について若干の考察を述べてきた。しかし、その当否を判断できるだけの情報は得られておらず、いずれも推測の域を出ない。このため、今後の近接地点での調査事例の増加と、その成果に期待することとしたい。

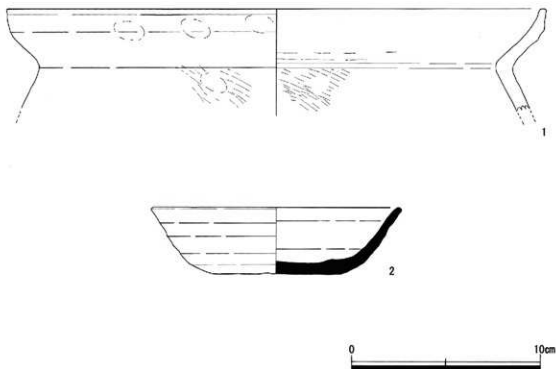


図4 遺物実測図



1 調査区全景（南東から）



2 調査区全景（北東から）



1 SH01 完掘状況（南西から）



2 SH01 完掘状況（北西から）



1 SH01 土層断面・掘削状況（東から）



2 SH01 土層断面（北東—南西壁 北西から）



1 SH01 土層断面（北西—南東壁 南西から）



2 SH01 カマド横断面（東から）



1 SH01 カマド掘削状況・横断面・縦断面（南から）



2 SH01 カマド完掘状況（南東から）



1 SK01 掘削状況（南西から）



2 SK02 掘削状況（南東から）





報告書抄録

ふりがな	ふくみついせきだいにじゅうじはくつちょうさほうこくしょ							
書名	福満遺跡第20次発掘調査報告書							
副書名	建売住宅建設工事に伴う発掘調査							
巻次								
シリーズ名	彦根市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	84							
編著者名	田中良輔							
編集機関	彦根市歴史まちづくり部 文化財課							
所在地	〒522-0001 彦根市尾末町1番38号 TEL0749-26-5833							
発行年月日	20210329							
ふりがな	ふりがな	コード		世界測地系		調査面積	調査期間	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
福満遺跡	彦根市 西今町 地先	25202	015	35度 14分 49秒	136度 14分 34秒	60㎡	20160920 ～ 20161104	建売住宅 建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
福満遺跡	集落跡	奈良時代	竪穴建物		須恵器 土師器			
要約	彦根市北部、大上川右岸に位置する縄文時代、古墳時代～中世にかけての集落跡。今回の調査では奈良時代の竪穴建物を検出。当該期の集落域の広がりを確認した。							

彦根市埋蔵文化財調査報告書第84集
福満遺跡第20次発掘調査報告書
 ー建売住宅建設工事に伴う発掘調査ー

令和3年(2021年)3月29日発行

編集・発行：彦根市歴史まちづくり部文化財課
 彦根市尾末町1番38号
 TEL 0749-26-5833

印刷・製本：株式会社デジ・プリント滋賀

FUKUMITSU SITE

2021